

原口統三没後五十年祭

伊左治 直 作品個展

1996年10月2日(水)

開場 ■ 18:30

開演 ■ 19:00

F.Chopin:Berceuse Op.57 1844

pf.高橋悠治

伊左治 直:Heterochromia／残縫 1990

vl.伊左治道生 pf.岡野勇仁

:“KO…”“OK!” 1995

fl.織田なおみ pf.新垣 隆

:畸形の天女／夜闌曲 1994

Tre stelle(cl.菊地秀夫 pf.生田美子 新垣 隆)

F.Chopin:Andante spianato and grande polonaise brillante Op.22 1836

1992.10.19 pf.高橋悠治

伊左治 直:暁の使者(新作) 1996

sop.中川 共 1996.1.12

fl.織田なおみ cl.菊地秀夫 pf.岡野勇仁

vl.伊左治道生 vc.満田 抗 cond.新垣 隆

1946.10.25

1996.10.2

於:護国寺 同仁キリスト教会

cevons tous les influx de

cependant c'est la veille.

夜明けの海はまだ暗く
夢のなかに 幻の城は聳えていた

断片／暁の使者 原口統三

五月の名残り—伊左治君へ—
とりあえず、今いる場所からはじめよう。

もう一度。
結局のところ道は見えている範囲でしかわからないし、それだって怪しいものなのだ。多少の想像はあっても、明らかになるには実際に移動するしかない。少しずつ変わる風景を丁寧にみていれば、「端」と思っていたところも何らかの形でつづきがあることが解ってくる、だろ。時の移り、位置を進えれば全く同じ世界は存在しない。袋小路など最初からなかったのだ。反転。向ぎが異なったとき、そこは少し別の姿、つづきの道となって在るはずだ。

密かに作用する交換点をかるやかに切り抜ける。
時々振り返ってみる。つかのまの懐かしさと微かに色の変わった周囲。
到達点のないこと。
ゆっくりと、ただよう過程だけ。

佐々木晋平

僕は黙っている海が好きだ。波の穏やかな日の海が好きだ。
けれども僕が、語らない海を愛するのは、それがすばらしい語り手であることを知っているからだ。

静かな忍びの衣の下にやすらう黎明の海上にも、きっと、あの壯絶な暴風の夜半が、超乎の夕べが、泡立つ正午が約束されているからだ。

だが、これは悲しいことではないのか。この約束なしにわれわれは海を愛せるであろうか。

人は海へ来て、はるか青一色の沖合に碎ける幾つかの白い波頭を認めなければ、最後の微風も死に絶えた大氣の中に、かすかなざわめきを聽きとらなければ、煮えた秋の陽を浴びて、じっと動かない灰色の砂丘の上に、無残な崖の一晩の痕跡を踏まなければ、恐らく退屈に耐えずして踵を退すだろう。

僕が語り手でなくなることを嘆くまい。
筆寫を、あの永遠の喫の少女の、美しい瞳を仰ごう。

エチュード I 原口統三

■伊左治直 プロフィール

1968年生まれ。85年東京音楽大学大学院修了課程修了。81年『Heterochronia／羽絲』が第30回日本音楽コンクール(室内楽作品)第2位(位なし)。82年『LUNA(“血の誓約”への前夜祭)』で第9回日本現代音楽協会作曲新入賞。94年『畸形の天女／七夕』が第63回日本音楽コンクール(オーケストラ作品)第1位、95年第5回芥川作曲賞。他に、室内楽に『優しい夜のために～原口統三の追憶に～』(32年)、『青の神殿』(33～34年)、電子音響作品『迷路舞踏練習曲』(34～35年)、ピアノと弦楽オーケストラ作品『われに五月を』(95年)など。

1996年10月2日(水) 19:00開演(18:30開場)

場所 ■護国寺同仁キリスト教会

前売●¥3,000／当日●¥3,500

チケット取扱い：チケットぴあ 03-5237-9990

電話予約・お問い合わせ●03-3979-6705 (いさじ)
048-465-8052

Cependant c'est la veille.

Recevons tous les influx de vigueur et de tendresse réelle. Et, à l'aurore, armé d'une ardente patience, nous entrerons aux splendides villes.

-Arthur Rimbaud-

残編曲 詩 李賀

訳 高橋憲治

しだれ柳 葉も老いて 養 子育て
断たれんとするくもの糸 黄蝶 巣をめざす
少年の髪は縁 霧のかんざしは金
青ざめた巣 こはくが沈む
苑のうてな 夕闇せまる 春 はなれ赤る
落ちた花 立ちあがる つむじ風 舞う
にれの実 さきをあらそい 無数
青頬のコイン 通りに敷きつむ

Apprécions sans vertige
l'étendue de mon innocence.

-Arthur Rimbaud-

et de fendre
et, à l'aurore,
globe battue, nous

